

【宇部市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した活動、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒、地域住民が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時：令和6年9月27日（金）・28日（土）
- 2 実施場所：藤山小学校
- 3 参加者：藤山小児童18名、鶴ノ島小児童6名、藤山中生徒14名、宇部西高校生徒3名
宇部フロンティア大学学生6名、藤山小教員8名、鶴ノ島小教員2名、藤山中教員3名、高校教員2名、大学教員1名、保護者2名、地域住民5名

4 プログラム

【1日目】9月27日（金）

15:10	15:50	16:15	17:30	18:30	19:40	21:15	22:00	
受付	開会行事	グループワーク	講話 避難所体験 ・防災、避難所についての講話 ・段ボールベッド作り体験	非常食体験	講義 「災害ボランティア活動について」	熟議 「災害発生時にすべきこと、できることについて」	就寝準備	就寝

【2日目】9月28日（土）

6:00	6:30	8:30	10:00	10:20	11:00
起床	朝食	防災活動体験 ①消火活動、土のう、ロープワーク、簡易担架体験 ②給水車による給水体験 ③緊急電話体験	清掃活動	閉会式	解散

5 活動の様子

1日目

《講話・避難所体験》

防災危機管理課の方から、市のホームページ上にあるデジタルハザードマップを確認し、避難先を検討することができました。また、非常持出品を確認することなど、災害への備えとしてやってほしいことについて話を聞くことができました。また、情報収集の方法はインターネット以外に電話やFAXでもできると教えていただき、子どもたちにとっては、それが新たな知識となったようです。

次に、地域福祉課の方から避難所となる施設の概要や備蓄品、避難所の運営について教わりました。避難することになった場合は、受付でカードに自分たちの情報を記入することになるなど、実際に起こったら避難者がどのような動きをすることになるのかを具体的に聞くことができました。講話の最後には、段ボールベッド作りを体験しました。簡単に作れるようになってはいますが、それでも、班の人と協力することで早く組み立てることができました。思った以上の強度があり参加者は驚いていました。



《非常食体験》

食糧として1人につきご飯2袋、クラッカー1缶、パンの缶詰1缶、クラッカー1缶、水500mL×2本を配付しました。保存食が長期保存可能なことや調理が簡単であることを学び、限られた食糧で翌日朝まで計画的に過ごすことをそれぞれが考えて、自分にあつた量を食べました。パンがふわふわ柔らかい、ご飯が思っていたより味が良いなど、参加者が想像していたものとは違って非常食は食べやすかったようです。



《講義「災害ボランティア活動について」》

山口県学校防災アドバイザーで実際に多くの災害現場へ行き、ボランティアとして活動されている弘中秀治さんから災害ボランティア活動について話を聞きました。災害ボランティアは手助けを必要としている人のところへ行くことが大切であり、手助けを必要としている人とボランティアをつなぐところが「災害ボランティアセンター」であるということを知りました。写真を交えながら実際の活動で気を付けることなど具体的に教えていただきました。講義を通じて、人と人のつながりが様々な困難を和らげ、人を救うということを学ぶことができました。



《熟議「災害発生時にすべきこと、できることについて」》

藤山中ヤング自治会がこれまでに調べてきた防災に関する発表を行いました。防災に役立つ豆知識や日頃の備えの必要性についての説明、危険箇所の紹介など、地域の方や小学生に分かりやすく伝えました。

その後、これまでの内容をもとに地域の方や保護者と一緒のグループで熟議を行いました。藤山地区ではどんな災害が起こるかについて考え、地域の方の経験等を聞き、自分たちにできることを話し合いました。周りの人に呼び掛けることなどいろいろな意見が出ました。



2日目

《防災活動体験》

指導者として藤山消防団・自主防災会、宇部市水道局、日本公衆電話会の方々に来ていただき、3つのグループに分かれて体験活動を行いました。

消防団の方からは、ロープワークで短いロープを長くする方法を教えてくださいました。その他にも消火器を使用する際に風向きも考えることが大切であること、土のうはゴミ袋などで代用できること、棒と服で担架が作れることなどたくさん教えてくださいました。



水道局の方には、災害時の給水について教えていただきました。大規模災害の時には数に限りがある給水車が、一か所にとどまるわけにはいかないのです。給水コンテナがあることと、それが市内の小学校に一つずつあることを教えてもらいました。非常用飲料水袋への給水も体験し、水の持ち運びの大変さを実感しました。また、給水用ポリタンクには目印をつけておくことで区別がついてよいことなど、給水時に大切なことを知ることもできました。



日本公衆電話会の方には、災害時の公衆電話の使用について教えていただきました。公衆電話がつながりやすいこと、災害時には無料で使えること、赤いボタンで消防や救急を呼べることなど、今の子どもたちにはあまり身近ではなくなりつつある公衆電話について知ることができました。また、災害伝言ダイヤルの使い方を体験し、災害時に家族などと連絡を取る方法を学ぶことができました。



《閉会行事》

防災キャンプを通じて学んだことの振り返りを共有しました。参加者にとって、様々な体験を通じて、自分と周りの人、そして社会全体で助け合う「自助・共助・公助」の大切さを学ぶことのできた2日間となりました。

【児童・生徒の感想から】

【小学生】

- ・家に帰ったら非常持ち出し品などがあるかを確認しようと思った。自分たちにできることは何かを考えることができた。
- ・体育館などに避難した時の大変さや避難訓練の重要さを知ることができた。周りの人たちの支えになるにはどうしたらいいかといった話し合いもできてとてもいい経験になった。これからはもしも災害が起こり避難した時には周りから支えられるだけではなく、自分も誰かの支えになりたいと思った。
- ・これまで私の家では災害についてあまり深く考えたことがなかったけれど、防災キャンプで避難生活が大変だということを知れてよかった。

【中学生】

- ・「暑くて眠れなかった」「食事が十分になかった」という意見が出たが、避難した時にこういう問題があるということが分かったから気を付けたいし、防災バッグに物を入れて備えておきたい。
- ・もし、災害が起こったら助け合うことが必要だと改めて感じた。普段から地域の人と繋がって仲良くすることが大事だと思った。
- ・学校の避難訓練ではあまり経験できない給水体験や非常時の電話体験ができた。この二日間で初めて会う人とたくさん協力して活動することができた。もし実際に起こったときは今回よりたくさんの方がいるので学んだことを生かしたい。
- ・実際に被災地に行った方のお話はとても貴重だった。被災者の方に寄り添う時に大切なことや、その大切さを学ぶことができた。まずは、日頃の備えが1番大切なことだと思ったので、家に帰って今回知った知識を忘れないようにしたい。

【地域】

- ・被災者に寄り添うことの大切さと大変さが分かった。
- ・アルファ米のご飯が予想より味がよく、日常と変わらなかったが、毎日だと、バリエーションが必要になる。日頃の備蓄のヒントになった。